

メインシナリオ／グランド第5回
『あなたのための希望のうた 第5話』 個別リアクション

『まだ試されているのか』

造船所に気が立った人達が集まっているという話は、領主の館にも届いていた。
伯爵のアシル・メイユールにはこうなることはわかっていたようで、特に慌てた様子はない。
クラムジーは内心の焦りを押し隠し、暴動が起こる前にとアシルに進言した。
「もう少し、住民達の不安を減らせるような情報はないのですか？ これではあまりにも唐突すぎるかと」

その時に見せたアシルの顔を、後になってクラムジーはこう思い返す。
——そう言ってくれるのを、待っていました。
まるで、そんな意味の顔だったと。
座るよう促され、ソファに腰を下ろしたクラムジーに、アシルは世間話でもするような雰囲気でも話し出した。

「あなたの人柄を見込んでお話しします」
アシルのまとう空気と言葉の内容がちぐはぐで、クラムジーは戸惑いを覚えた。
「箱船計画ですが、あれは水の魔力の吹き溜まりを見つけることを、第一の目的としています。その場所を見つけて、暴走した水の魔力を鎮めることを」

「……え。そ、それはつまり……」
「はい。移住地を探すのは、ついでです」
「ちょ、ちょっと待て……待ってください」
初めて耳にした事実、クラムジーの頭はついていけない。
とっさに浮かんだのは、町の人達はこのこと知らないよな、ということだった。
今、造船所で騒ぎを起こしている人達も、箱船の目的は新たな移住地を探すことだと思っているだろう。だからこそ、より生きにくくなりそうなここに残されることを恐れているのだ。
自分達は騙されていたのかと失望しかけたが、アシルはまるっきり嘘を言っていたわけでもないと思ひ至る。

ついでだけれど、移住地も探すのだ。
「箱船に乗る人員は、第一の目的を果たすために選んでいます」
ドクドクと脈打つ心臓を抑え、クラムジーはどうか言葉を口にさせる。
「どうして、そんな重要なことを私に……？ 私が、あなたを裏切って、このことをリルダさん達に話し、計画を変えてしまうとは考えないのですか？」
「おや、そんなことを考えていたのですか？ ですが、そんなことをしたら町は今以上に混乱して、本当に箱船は壊されてしまうかもしれませんよ。そうなったら、ついでの目的も果たせませんね」

アシルは、このことを誰にも話すなとは言わないが、とても慎重に扱わなければならないことだということは、クラムジーにはよくわかった。
だから、今はまだ胸に留めておくしかない。
そうしておいて、造船所の騒ぎを静める対策を練らなければならない。
彼らに何を言うべきか、頭の中でまとめていく。

「伯爵、お願いがあります……」
こうして準備を整えたクラムジーは、用意された馬車に乗り造船所前へ急いだのだった。

こちらのリアクションは以下のPCに発行されています。
クラムジー・カーブ